

夢みるこども基金だより

18
NO.



募金を呼び掛けるこどもたち、マイクを握っているのは阿部由季さん

福岡の心が被災地へ 「いのちの石碑」建立に協力

第19回イベント

「皆さんありがとうございます。集まった募金額が発表された瞬間、寄せられた善意の大きさに舞台上の子供たちの瞳が弾けたように輝きました。被災地・宮城県女川町から参加した中学生と共に炎天下の繁華街で声を枯らしながらの真摯な呼びかけが、街行く人々の心にしっかりと届いたことを子供たちは実感し、被災地支援のお手伝いが出来た、との思いを新たにしました。

全国の歯科医院の協力をいただき、19回目を迎えた今年の夢みるこども基金のイベントは7月27、28日の両日、佐賀県唐津市、佐賀市三瀬村と福岡市で開催されました。

28日は、東日本大震災被災地と絆を強く「石碑建立応援プロジェクト」をメインテーマに、福岡市の明治安田生命ホールで「こどもシンポジウム」を開催しました。今春の「夢みるこどもキャンペーン」絵画・作文コンクール(応募作2786件から)小、中学生26人が入賞では作文の部で、宮城県女川町から多数の応募があり、実体験に裏付けられた力強いメッセージが、いずれも劣らぬ圧倒的な力強さで読む者の胸に迫り、最優秀を含め多くの

作品が選ばれました。春に開かれたこども会議では、女川の中学生が協力を求めた「いのちの石碑」建立プロジェクトへの募金に皆が賛同、夏のイベントで取り組むことに決まりました。

シンポジウムでは女川第一中学校在勤中に被災、生徒に寄り添い支え続けてきた気仙沼市立唐桑中学校教頭の阿部一彦教諭が基調講演。厳しい津波被害の現実に向き合いながら、自分達の考えで何が必要かを考え、しっかりと足取りで未来を拓いて行く中学生達の姿を溢れんばかりの愛情を込めて語り、女川の中学生は自ら辛い思い出を持ちながら明日に向かって進む強い決意を語りつくしました。

全国から参加した子どもたちも、自然の畏れと災害への備えが大切、支え合える絆を築いてゆけためには、など自分の言葉でそれぞれに想いを語りました。司会は基金OB・OG会の長尾恰美基金理事、堀江健一郎実行委員が担当。後輩たちを励ましながら、小学校低学年の子からも積極的な意見を引き出すなど進行役を務めました。

中心に子供たち全員が街頭に立ち、石碑建立に向けた100円募金の協力と呼び掛け、1時間足らずの間に別途に集まった寄付金を含め計10万円超の浄財が集まりました。これらの模様はマスコミ各紙でも報じられ、運動の大きな広がりがありました。

前日の27日には、「夢みるこども基金」の森を訪れ、林野庁・佐賀森林管理署による森林教室をはじめ、廃材でのアクセサリー作りなどで自然と触れあいました。二日間の交流を通じて、まだまだ厳しい生活が続く女川の中学生は他地区からの参加者ともすっかり打ち解け、涙ながらに別れを惜しんでいました。基金では震災直後から続けている女川町への支援をこれからも地道に、未永く続けてゆくとしています。今回の貴重な経験で子供たちは一層大きく成長するともに、これらの活動が全国に向けて被災地支援の気運を呼び起す機会となることを目指します。

イベント日程
 7月27日
 午前 唐津市 虹の松原で松葉掻き
 午後 唐津市 遊々の森「夢みるこども基金」の森で森林教室・森の体験
 7月28日
 午前 福岡市 天神にて「女川町のいのちの石碑」建立募金活動
 午後 福岡市 明治安田生命ホールでシンポジウム開催

主催：夢みるこども基金

後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、唐津市、唐津市教育委員会、佐賀森林管理署など

募金を通して「絆」を広げる



小さな子どもたちからも募金がありました

「お願いします。」
 こどもたちの元気な声が天神福岡市の街に響き渡った。

イベント2日目の午前中、こども達は前日過ごした佐賀市三瀬村を後にし、福岡の中心街である西鉄福岡駅天神駅前にて街頭募金活動を行った。1日目の夜には、基金のこども達全員、東日本復興の願いを込めて、少しでも援助となる募金を集まよう、と募金箱作りからこども達なりの作戦を練りながら、真剣に活動に取り組んでいた。

3月のこども会議で提案され実行された募金活動の主旨は、1000年先の命を守るために「いのちの石碑」を建立することである。提案者は、イベント参加者であり、実際に東日本大震災の体験者でもある阿部由季さんと神田七海さんです。2人は2年前にのイベントに参加し震災の実態を伝えに来てくださった宮城県女川町にある中学校に現在通学している。そして、その女川中学校では「いのちの石碑プロジェクト」という活動に取り組んでおり、彼女達がその先頭に立ち動いている。そのプロジェクトに活動の一つとして夢みるこども基金もお手伝いしてきたという思いから募金活動が企画された。集まった募金は65,496円で、別の寄付金と合わせて

計10万円余を「いのちの石碑プロジェクト」を運営する「いのちの石碑」を作る女川の子どもたちを支えるために送られた。基金からの寄付金20万円も送金した。少しでも僕達の活動が女川町の未来を築く糧になつてくれればどんなに嬉しいかが、また、参加したこども達は2年前のイベントに参加してないので、女川町の被害の状況や苦労をあまり知らなかったであろう。そんなこども達が、こども会議で全国から集まったこども達と出逢い、その中で女川町のことを知った。そして、今回のように募金活動という形で友情の輪が広がってきた。

もともと、夢みるこどもキャンペーンの原点は、全国各地、様々な生活環境の中で生活しているこども達が、自分の夢を作文や絵で表現し、その優秀な作者たちがこども会議に招かれる。そこで友情が生まれ夏のイベントでさらにその友情が深まる。その機会づくりこそが夢みるこども基金の役目だと僕は考えている。それが今回のイベントでも、女川町から参加した阿部さん、神田さんの話をきっかけに女川町の人達のために何



イベント前夜に宿舎でこどもたちが作った募金箱

か僕らに出来る事はないかと模索した所、今回の募金活動に行きついた。活動を通して、女川中学校の生徒や1000年後の女川町、それを担う人達、将来女川町に生まれてくるこども達のために、寄付・協力をしようとした方々、本当にありがたございました。そして、僕に今回の企画が、まさに夢みるこども基金の目指す友情の発掘であり、人と人とのつながり、絆を生んだのではないかと思う。絆の辞書的な解釈は「人と人との断つことのできなかつながり」とある。僕たち

目標の1000万円達成

生徒は、何もなかつた町で、社会科の授業を通して、自分たちが経験した辛く、悲しい体験を一度と繰り返したくない!!この一心で、3つの津波対策案を考え出しました。

中学生が1000年後の人の命を守るため、ふたつの町づくりに積極的に活動している姿は、私たち被災地の大人に生きる希望を与えてくれます。また、夢みるこども基金の夏のイベントでも、全国から集まったこどもたちが募金

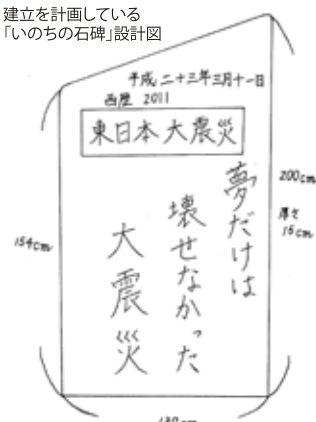
ちの募金活動によって、女川町なんて全く知らなかつた人も、女川町の未来を支えるであろう石碑の建立に賛同し、資金協力をして下さった。そんな、人と人とのつながりが女川町もしくは日本の未来を切り開いていくのだと感じた。そして、この絆こそ夢を追いかけようこども達にとって最高の宝物になったのではないのでしょうか。僕自身も同様ですが、これからもお手伝いが、できるだけタッグの一員として頑張っていきたいと決意しました。

活動に協力をお願いしたくなく、日本中、そして、世界各地の人々に支えていただきました。そのお陰で1000万円の募金も、6ヶ月で集めることができました。本当にありがたございました。

しかし、子どもたちの1000年後の命を守るための活動は、まだ始まったばかりです。中学卒業後の進路が決まった後に、命を守る教科書作りを再開することになっています。

この子どもたちは、私にとって生きる希望あるとともに、たくさんの方々に、この偉大な先生たちと、1000年後のよりの町づくりを進めていきたいと願っています。

建立を計画している「いのちの石碑」設計図



前女川町立女川第一中学校 教諭 阿部 一彦 現気仙沼市立唐草中学校 教諭

「防災」について熱い討論

今回のイベントのメインとなる子ども討論会は「災害の備えや新しい街づくり」についてをテーマに、女川中学校の子どもたちが夢みる子ども基金の子どもたちを中心として開かれた。司会は夢みる子ども基金OB・OG会の長尾恰美



子どもシンポジウムで防災についての話し合い

災地を訪れることが出来るなら、どんな街にならなくてほしいか。

3. 東日本大震災後に絆の大切さが見直された日本。その絆を深めるために日頃心がけているとは何か。

のそれぞれについて子どもたちの熱い討論が交わされた。

人の手でできる防災を

1のテーマについては、「台風や地震が起きたときは学校から注意喚起のメールが送られてきて、常に学校との連携がとれるようなシステムになっている」と避難訓練は定期的に行われている。「地域の人の絆を強め、災害時の役割を決めるなどの災害の備えについての意識の高さを思わせるような意見がとびかった。元女川中学校教諭の阿部一彦先生は、「想定をしないで避難訓練をするのが大切。想定の中の準備しかしてなかったため、実際の震災の日は教師陣も臨機応変に動くことができなかったし、学校内の懐中電灯もすべて電池が切れていた。避難訓練をやったつもりではなく、実際に役立つ訓練をしてほしい」と会場に呼びかけた。また、女川中学校3年生の神田七海さんは「ユースで津波対策のために南三陸に大きな防波堤を造る計画を見て悲しかった。私たちの故郷はとても自然が素晴らしい。今回の被害も技術を過信して拡大したところもある。技術を向上させて対策をたてるのではなく、避難経路の確立など私たちの手で出来る対策が必要と



基調講演の阿部一彦教諭(右の2人が女川中学生)

訴えた。

2つ目は、被災地の希望とあり、夢でもある議題「南三陸の生き物で大きな水族館を作りたい」と津波のために丘の上に絵本がたくさんある大きな避難所が出来たらいいなと、子どもたちも生き生きとした表情で未来の被災地に想いを馳せた。また、阿部教諭は「今の女川町の子どもたちは震災後のがれきの影響で学校まで歩いて通えない。皆ハスで通っている。未来の被災地では、子どもたちが当たり前に行き通える環境にならなくてほしい」と述べた。

震災の記録と記憶を後世に残そう

そして3つ目は、今の日本の大きなテーマでもある絆を作るにはどうしたいか。笑顔で挨拶をする」と近所の人と仲良くすると、子どもたちの意見が活発に飛び交う中、女川中



防災シンポジウムで意見を述べる子どもたち

校の阿部由季さん、神田七海さんの2人が声をあげた。「昨日からみんなと一緒に過ごした時間がまさに絆。募金箱作りや募金活動も、みんなは自分たちのエッセンスに、私たちのために「生懸命」声を張り上げて頑張ってくれた。本当に嬉しかった。お互いを思い合える心を持つことで、これぞ強い絆だと思う。この2人の言葉を聞いて、会場は一気に暖かい空気に包まれた。子どもたちは皆、はにかんだような恥ずかしそうなでも、とても嬉しそうな顔をしていたのが印象的だった。夢みる子どもキャンペーンと女川中学校の強い絆が確かにここにある」と感じた瞬間だった。

そして最後に、震災の記録をしっかりと残して、後世に伝えることの大切さを皆で実感し、実際に震災を体験していない子どもたちも、今日の討論会で話したことを伝えることとなり、一人一人が自分に出来ることをする、ということが結論となった。

賑やかなびじゅわ基金の森

木工作りで盛り上がる

2013年7月27日。今年度の夏のイベントの1日目は、基金の森でスタートしました。

最初に、林野庁の佐賀森林管理署の職員の方々と、NPO法人ビッグ・リーフの久保基行



宿舎の古民家で

さんの協力のもと、子どもたちと一緒に基金の森を散策しました。散策開始直後の基金の森の中でひととき木目立っていたのは、倒れている木の丸太に、びじゅりと生えたコケでした。

久保さんが「どうして、ここにコケが生えていると思う？」と聞くと、子どもたちは、真剣に自分たちの考えを発言しました。「川が近くに流れていて、水分がたっぷりあるから」、「木には栄養分がたくさんあるんじゃないかな」。初めて入った基金の森の中で、子どもたちは自然というものを、目で見てそして自分の頭で考えながら学んでくれたと思います。

一通り散策を終えた後、今度は、子どもたちに『木へのインタビュカード』を配りました。このカードには、「あなたのところにどんな生き物が遊びにきますか?」や「わたしたちに何かしてほしいことはありますか?」など、木へのインタビュ項目が並んでいます。しかし、森の中に高くそびえる木は、声を出しません。このインタビュを完成させるには、一人

ひとりとその木をじっくりと観察する必要があります。

30分間のインタビュで、子どもたちは、自分のお気に入りの木を決め、じっくり眺めたり、触ったりしながら真剣にインタビュしていました。「鳥が鳴いていた」、「森をきれいにしないと。僅かな時間の中で、子どもたちはしっかりと木のメッセージを受け取ったようでした。

最後に、子どもたちは基金の森の中で、木のペンダントやストラップなどの木工作品を作りました。今日という日に、みんなの名前を書いたり自分の好きな絵を描いたり、世界に一つだけのすてきな木工作品が完成しました。

今年も、基金の森でのプログラムは例年通り、大盛況でした。子どもたちが森の中をにこにこしながら歩き回り、自然と触れ合う姿を見ることができ、スタッフとしてもとても幸せでした。

昨年のイベントで子どもたちの夢が広がった国の天然記念物の「ヤマネ」の生息が確認できなかつたことは残念でした。しかし、生息の可能性がゼロだとは思っていません。



基金の森の入り口での記念撮影

第19回こども宣言

今日、全国のこどもたちがこの福岡に集まり、第19回イベント「東日本大震災被災地と絆を強くく石碑建立応援プロジェクト」を開きました。今回、私たちは震災から学んだことを次世代に伝えたいために「災害に強い街づくり」をテーマにシンポジウムを開き、皆で様々な意見を出し合いました。

日本は地震を始めとする自然災害が多い国です。また九州は毎年台風被害を受ける地域であり、昨年は九州北部豪雨における多大な水害に見舞われました。そのような日本に生まれ住む私たちが常日頃、心がけるべきことは何でしょうか。

まずは防災についての知識を深めることです。過去の災害から学んだことを生かし、被害を最小限に抑えるために、「寝室に大きな家具は置かない

いや」揺れを感じたら火を消す」などの基本的な防災を確保しておくことが大事です。

次に災害が起きたときの行動を決めておくことです。これ

きにも、混乱の中、家族や知人を探しに戻って亡くなられた方がたくさんいます。緊急事態の混乱を少しでも緩和するために、前もって自力で避難が

難しいお年寄りや小さな子どもを保護する役目の方を決めておくことも必要です。

最後に「絆」を深めることで、自主防災組織という言葉

を知っていますか？これは「自分たちの地域は自分たちが守る」という意識を持って、常日頃から地域全体で防災活動に取り組むという街づくりです。大きな災害にもって道路が

塞がれたりライフラインが寸断された場合は、通常の消防活動が出来ず、実際の震災のときも、地域住民の人に助け出された人が大勢います。普段から、地域全体で防災への啓発や避難訓練、食材や備蓄品の確保等をするのが、いざという時の大きな力になります。

私たちは大いなる自然の前には、人の力は実に小さいことを知っています。自然をむやみに畏れるのではなく、地道な防災対策を立て、うまく共存していくことが何よりも大切なのではないのでしょうか。

もうすぐ東日本大震災から2年5ヶ月が経ちます。それ

ぞれ一人一人が様々な想いを抱えての2年5ヶ月だったことと思います。復旧作業から復興へと変化しつつある中で、同時に「この震災を風化させてはいけない」と後世へ伝えていく動きが広まっています。女

川中学校発案の「いのちの石碑」は、1000年後の人々の命を救いたいという想いがこめられています。先人の知恵・教えた。今度私たちが未来の日本のために、先人となって伝えていくべきです。



こども宣言(左が天野友菜さん、右が阿江真くん)

私たちは四季によって情景をかえる美しい日本を知っています。これもまた日本の気候が作り出す奇跡です。1000年後、自然災害を畏れることのない安全対策が誇れる国になっているよう、自分たちに来ることを一つずつ頑張っていくことと思います。

「東日本大震災被災地のために」の意見が集中 自然体験にも関心が高かった

夢みるこどもキャンペーン 議は3月31日(日)に、今年
第19回「こども会」は「私のかねえたい夢」



活発な意見が相次いだこども会議

作文・絵画コンクールに、全国の小中学生から2786点の応募があり、その中で優秀な作品を出してくれた23人のこども達が出席し、会議を盛り上げてくれました。

また、後半の夏のイベントの話し合いでも個々のやりたいこの意見は活発に出されたものの、女川中学校の取り組み「いのちの石碑プロジェクト」の活動を知ると、周りのこども達から自然にいろいろな意見が出され、募金活動が提案されました。その後もこども達から様々な意見が出されましたが、海や森、山の中で自然と触れ合う機会を望む意見が多く、今年も自然体験万歳の夏のイベント企画となりました。

作文・絵画コンクールに、全国の小中学生から2786点の応募があり、その中で優秀な作品を出してくれた23人のこども達が出席し、会議を盛り上げてくれました。

また、後半の夏のイベントの話し合いでも個々のやりたいこの意見は活発に出されたものの、女川中学校の取り組み「いのちの石碑プロジェクト」の活動を知ると、周りのこども達から自然にいろいろな意見が出され、募金活動が提案されました。その後もこども達から様々な意見が出されましたが、海や森、山の中で自然と触れ合う機会を望む意見が多く、今年も自然体験万歳の夏のイベント企画となりました。

特に前半最後に東日本大震災を体験し2年前に夏のイベントに参加して頂いた、元女川中学校(宮城県)の阿部一彦先生からのメッセージが読まれた後、今回の出席者である同中学校の阿部由季さん、神田七海さんが被災地の復興の様子を伝えてくれました。参加したこども達が、あらため



◆第19回 作文の部・入賞者リスト(31名)

	名前	県名	学校名	学年	題名
最優秀賞	阿部 由季	宮城	女川町立女川第一中学校	2年	夢に向かって(震災対策案を実現し、こども達に伝えたい)
優秀賞 (3名)	神田 七海	宮城	女川町立女川第一中学校	2年	私の夢(女川町をみんなに愛される町にしたい)
	佐々木 あかり	宮城	女川町立女川第一中学校	2年	私の描く未来(美術系の仕事につき、女川町に色を)
	鈴木 元哉	宮城	女川町立女川第一中学校	2年	私の将来(震災の教訓を生かし、困った人を助けたい)
特選 (7名)	下村 一真	福岡	福岡市立赤坂小学校	5年	「ほくの武士道」
	伊藤 芽衣	宮城	女川町立女川第一中学校	2年	「1000年後」の命を守る
	宿利 美菜	福岡	福岡大学附属大濠中学校	1年	将来の夢(医者になりたい)
	河江 真	福岡	福岡市立原北小学校	5年	ほくのかねえたい夢(農業をしたい)
	立花 直也	福岡	福岡市立南片江小学校	6年	ほくのワクワク
	田辺 楓	福岡	福岡市立別府小学校	5年	～夢～助けてあげたい人々
	石田 琴音	福岡	北九州市立思永中学校	1年	私のかねえたい夢(ユニセフで働きたい)
入選 (20名)	樹田 美音	福岡	福岡雙葉小学校	6年	New武士道
	遠藤 安希	福岡	福岡市立香椎小学校	5年	接したい、誰にでも変わらずに
	金子 和矢	東京都	世田谷区立桜丘小学校	3年	ほくたちと生き物たちと地球の笑顔
	天野 友菜	福岡	福岡市立田隈小学校	5年	天国のゆきのために
	福永 乃栄	鹿児島	鹿児島市立紫原小学校	6年	わたしの夢(古い建物の修復士になりたい)
	松本 莉子	福岡	北九州市立西門司小学校	5年	夢への第一歩(アニマルセラピストになりたい)
	三好 皓子	福岡	福岡大学附属大濠中学校	1年	ドラえもんの世界へ
	小林 ゆら	熊本	天草市立本渡北小学校	2年	森の中のどうぶつびょういん
	磯部 令佳	福岡	福岡市立美和台小学校	2年	わたしのかねえたいゆめ(建築家になりたい)
	川崎 夕美	鹿児島	出水市立西出水小学校	4年	「本の家」を作りたい
	石崎 美侑	福岡	福岡大学附属大濠中学校	1年	言葉で未来をつくる(弁護士になりたい)
	川崎 有紗	福岡	福岡大学附属大濠中学校	2年	不思議なちからを信じて・・・(獣医になりたい)
	穴見 拓	福岡	福岡大学附属大濠中学校	2年	将来の夢(宇宙飛行士)
	溝上 真人	福岡	大刀洗町立大刀洗中学校	2年	夢(新聞記者)
	柿塚 琴水	福岡	福岡市立別府小学校	5年	命の大切さ(動物を保護する活動をしたい)
	重富 勇輝	福岡	福岡市立長丘小学校	2年	ほくの作りたいテレビ
	内堀 裕太	福岡	朝倉市立南陵中学校	1年	空が飛びたい
	小林 亮希	福岡	福岡市立和白東小学校	3年	わたしのかねえたい夢(大工さん)
	藤瀬 愛那	福岡	大野城市立月の浦小学校	1年	わたしの、かねえたいゆめ(魔女になりたい)
	山内 瑛介	福岡	福岡市立玉川小学校	1年	ゆめほうちゅうひこうし

「わたしのかなえたい夢」

作文・絵コンクール・最優秀賞

作文の部・最優秀賞



阿部 由季

宮城県女川町立
女川第一中学校二年
(入賞当時)

そんな中「ゴオー」とものすごい音をたてて津波がきました。

私は高台へと逃げる途中、初めて津波を見ました。

津波はきたない茶色で、すごい速さで女川町をのみこんでいました。私は言葉を失いました。

あれから2年、私は中学2年生になりました。

女川町では約九百人が亡くなりました。

震度7で女川のある島付近では四十三メートルもの津波がきました。

私達二年生はこの体験を生かし、千年後まで伝えるため、一人でも多くの命を救うために三つの対策案を立てました。

一つ目は「絆を深める」です。

もうと絆を強くしておけば多くの人の命を守れたはずと考えたからです。

二つ目は「高台へ避難できる町作り」です。

病院や住宅などは高台に移転し、漁師さんなどは海沿いで働きます。

そして夜でも分かるように太陽光パネルを活用した避難誘導灯と高台の避難路を整備しておくことを考えました。

三つ目は「記録に残す」です。

震災の事を忘れないため、未来へ伝えるためにも残さなければなりません。本や石碑など形として残したいと考えました。

震災にあい、私の夢が増えました。

それはこの対策案三つを現させることです。

そして将来保育士になり、子供達に震災の事を伝えていきたいと思えます。

これが私の夢です。

絵の部・最優秀賞



福盛 紀世輝

鹿児島県鹿児島市立
川上小学校六年
(入賞当時)

「目指せレスキュー隊」

僕の将来の夢は、レスキュー隊に入ることです。あこがれ

のオレンジ色をした、服を着てたくさんの人を助けたいと思います。この絵を描きました。工夫をしたところは、背景を消防車にしたことです。



◆第19回 絵の部・入賞者リスト(26名)

	名前	県名	学校名	学年	題名
最優秀賞	福盛 紀世輝	鹿児島	鹿児島市立川上小学校	6年	目指せレスキュー隊
優秀賞 (3名)	緒方 太郎	福岡	福岡市立横手小学校	3年	ぼくは、夢の電車の運転士
	カニスアティマラホニ	バグワテシユ	夢みるこども基金学校	6年	みんなて協力して魚の捕獲
	中国 彩花	福岡	久留米市立城島中学校	2年	画家
特選 (5名)	小南 未来	福岡	宗像市立河東中学校	1年	幸せな私の一生
	土肥 寛太郎	福岡	福岡市立箱崎小学校	1年	福岡城がたつたらしいな
	森 ひかる	福岡	筑紫野市立筑紫野南中学校	1年	カメラマン
	真子 風夏	福岡	福岡市立野芥小学校	4年	手じょうをかけた
	山道 慎	大阪	松原市立松原第六中学校	2年	天体観測
入選 (17名)	香月 翔羽	福岡	福岡市立名島小学校	4年	動物カメラマン
	久保 篤也	福岡	福岡市立笹丘小学校	3年	消防士
	浦田 芯	福岡	福岡市立南片江小学校	1年	ピアニスト
	小西 一真	大阪	松原市立中央小学校	4年	水中カメラマン
	原田 将彦	福岡	宗像市立河東中学校	2年	月面基地
	石橋 奈々	福岡	福岡市立野間中学校	2年	木や水を美しく
	工藤 慶胤	鹿児島	出水市立下水流小学校	5年	サスケに出るぞー
	森元 鑑	鹿児島	鹿児島市立清和小学校	4年	将来の夢はロボッ博士
	坂本 昌隆	熊本	天草市立本渡北小学校	2年	魚つりにいったよ
	東 叶人	福岡	上毛町立南吉富小学校	2年	わたしのゆめ
	村里 友弥	福岡	大野城市立月の浦小学校	4年	はしりぬげる汽車の運転手
	庄崎 詩香	福岡	福岡市立愛宕浜小学校	4年	犬のゆめ
	山崎 祥史	福岡	福岡市立田隈小学校	3年	昆虫と遊ぼう
	古谷 一真	福岡	田川市立金川小学校	5年	ぼくのかなえたい夢
	トワレシヨ	バグワテシユ	夢みるこども基金学校	3年	川のある風景
	タマナアローンピリスティ	バグワテシユ	夢みるこども基金学校	6年	農作業
	ナムモバアルカサル	バグワテシユ	夢みるこども基金学校	7年	牛と競争

応募総数2,786点(作文1,570・絵1,216)

歯医者さんぼくたち、わたしたちの夢を 応援してくださって「ありがとう」

こどもたちから歯医者さんへ たくさんの感謝の言葉が届いています



こどもたちへの メッセージを!!

協力歯科医院の先生方からのメッセージをお待ちしております。

住所、歯科医院名、氏名を明記し顔写真を添付の上お送りください。

■メッセージの送り先: E-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp



阿部 由季
宮城
女川中3年

小学校3年生の時、虫歯が痛くて歯医者さんへ行きました。これは誕生日前日のこと。虫歯を治してもらったおかげで、おいしく誕生日ケーキを食べることができました。



河江 真
福岡
原北小6年

いつも、子ども達の夢を実現するためのサポートありがとうございます。ぼくは、このイベントで夢に向かって一歩ずつ進む事の大切さを知りました。これからも、御協力をよろしくお願いします。

私達の夢を応援して下さいありがとうございます。少しずつですが、夢に近づいていると思います。また、イベントに参加した皆さんの「夢」を聞くことができました。みんなの夢が叶うことを願います。私もがんばっていきこうと思います。歯医者の方々、ありがとうございます。

神田 七海
宮城
女川中3年



歯医者さん、ぼく達の夢のためにありがとうございます。これからも毎日歯みがきをするのと夢にむかってがんばります。



天野 友菜
福岡
田隈小6年

私は、小学校1年生の時から矯正歯科に通っています。小さい時から出っ歯で、心配した母に連れて行ってもらいました。すぐに矯正器具をつけ、今では出っ歯が治り歯並びもキレイになっています。矯正歯科の先生、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



田邊 楓
福岡
別府小6年

私は歯医者さんがとてもやさしくしてくれるので歯医者さんに行くのがいやじゃありません。痛かった歯も痛くなくなったのでうれしいです。歯医者さんにまた行くかもしれないのでそのときはよろしくお願いします。

金子 和矢
東京都
桜丘小4年



福盛 紀世輝
鹿児島
緑丘中1年

歯医者さん達のやさしい心にめぐまれ、ぼくたちは、今、基金にすることが出来ます。この幸せに感謝してこれからも命を大切に、そして世界を大切にしていきたいです。ありがとうございます。

歯医者さん、基金へのご理解とご協力ありがとうございます。これからも、盲導犬「はっくん」の貸与や僕たちの大きな夢を応援してください!



小南 未来
福岡
河東中2年

歯医者さんのおかげで歯の痛みがなくなり今生きるために食べ物を食べる事ができます。感謝しています。ありがとうございます。



真子 風夏
福岡
野芥小5年

いつも基金にご協力ありがとうございます。歯医者さんのおかげでイベントをかいさいすることができています。なので、私達も夢に向かってがんばるので、これからもおうえんよろしくおねがいします。

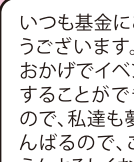
7/27~28日にイベントに行きました。このイベントがあるのは、歯医者さんのみさんのおかげです。『夢みるこども基金』の大きな源です。ありがとうございます。これからも基金の応援をお願いします。

緒方 太郎
福岡
横手小4年



森元 鑑
鹿児島
清和小5年

ぼくらは、歯医者さんのおかげでこのイベントにできる事ができました。ぼくも歯のきょうせいをしているのでいつも歯医者さんにお世話になっています。これからも、ぼくも頑張りますので歯医者さんたちも頑張ってください。



香月 翔羽
福岡
名島小5年

小林 ゆら
熊本
本渡北小3年



はいしゃさんが、きんばやぎんばをあつめて下さったので、夏のイベントにさんかすることができました。ありがとうございます。

土肥 寛太郎
福岡
箱崎小2年



こんなすてきな会に出席できて、とてもうれしかったです。お姉さんやお兄さんたちがたくさんいて、きんちょうもしました。天草のぼくがかよっている歯医者さんにも、この会のことをしようかいいたいと思います。

坂本 昌隆
熊本
本渡北小3年



■夢みるこども基金 寄付一覧表

寄付金内容	金額	寄付金内容	金額
平成 7年 8月 24時間テレビ愛は地球を救う	300,000	平成18年 7月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	300,006
平成 9年 7月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成18年 7月 江田果瑠奈さん(心臓移植手術)	100,000
平成10年 3月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設費)	2,000,000	平成18年 8月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成10年 7月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成18年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成11年 3月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設補助金)	600,000	平成19年 2月 九州盲導犬協会(盲導犬「はっくん2号」)	1,800,000
平成11年 8月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	100,000	平成19年 7月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	1,000,000
平成11年 9月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成19年 9月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成11年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成19年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成11年12月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	103,700	平成20年10月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	500,000
平成12年10月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成20年10月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成12年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成20年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成13年10月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成21年 8月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成13年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成21年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成13年12月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	2,000,001	平成21年 9月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	500,000
平成14年 3月 日本歯科医師会の8020推進財団	2,000,000	平成22年 8月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成14年 9月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成22年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成14年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成22年 9月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	500,000
平成14年 9月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	100,116	平成23年 4月 東日本大震災・女川のこどもたちへ(物資送付)	110,677
平成15年 1月 九州盲導犬協会(盲導犬「はっくん1号」)	1,800,000	平成23年 8月 ネパール歯科医療協力会	300,000
平成15年10月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成23年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成15年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成23年10月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	500,000
平成15年10月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	140,411	平成23年10月 宮城県女川教育委員会に支援物資	788,500
平成15年10月 イラク・アジアエキュメニカル奉仕会	300,000	平成23年 末 九州盲導犬協会(盲導犬「はっくん3号」)	1,000,000
平成16年 6月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(北・機代20万を含む)	300,119	平成24年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成16年 9月 ネパール歯科医療協力会	300,000	平成24年10月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	300,000
平成16年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成25年 8月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	300,000
平成17年 1月 新潟県中越地震	3,000,000	平成25年 8月 「いのちの石碑」を作る 女川の子どもたちを支える会	200,000
平成17年 4月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	3,000,000		
平成17年 6月 スマトラ沖地震	2,000,000		
平成17年 8月 ネパール歯科医療協力会	300,000		
平成17年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	合計	31,543,530

■協力歯科医院数(都道府県内訳)平成25年9月1日現在 合計1,101件

県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数
福 岡	267	大 分	34	新 潟	16	香 川	11	山 形	6	奈 良	4
東 京	153	長 崎	33	広 島	14	愛 知	11	岐 阜	6	京 都	3
神奈川	51	北海道	32	宮 城	14	岡 山	8	山 梨	4	鳥 取	2
埼 玉	41	熊 本	27	沖 縄	14	岩 手	8	石 川	4	秋 田	2
山 口	42	佐 賀	26	青 森	13	栃 木	8	島 根	4	高 知	1
鹿児島	39	大 阪	21	三 重	12	長 野	9	福 井	4	富 山	1
千 葉	39	福 島	22	茨 城	11	愛 媛	7	徳 島	4	和歌山	1
兵 庫	32	宮 崎	18	静 岡	11	群 馬	7	滋 賀	4		

これまでの「夢みるこどもキャンペーン」



夢のイベント



第6回

H128

アフリカの大地に根付け こどもたちの願い

福岡県宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、現地に送った。



第1回

H7.7

阿蘇こども出会いの里

熊本県阿蘇で開催。阪神淡路大震災で両親を亡くしたこどもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。大自然の中で交流した。



第7回

H138

バリアフリーの社会を作ろう

福岡市で「こどもシンポジウム」を開催。バリアフリーについてのこどもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、九州盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。



第2回

H8.7

阿蘇こどもみどり村

熊本県阿蘇で開催。筋ジストロフィーの少年バンドを招き、アグネス理事とジョイントコンサートをした。



第8回

H148

世界のこどもたちと交流

福岡市で開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流を行った。食事のチケット代を留学生に寄付。



第3回

H9.7

世界のこどもと手をつなごう

福岡市で開催。バングラデシュのカラムディ村から教師ら3人を招き、「夢みるこども基金学校」の建設資金を贈呈した。



第9回

H158

日本の心をイラクの こどもたちへ

福岡市で開催。日本古来の遊具(竹トンボ、コマなど)、パッチワーク、教材費をイラクのこどもたちに贈った。



第4回

H10.7

夢の放送局

福岡市で開催。「夢の放送局」を開局して、こどもたちがそれぞれの夢を発信した。「夢みるこども基金学校」の教材費の募金も。



第10回

H168

こどもたちが結ぶ10年の夢

福岡市で開催。1回～10回までに参加したこどもたちも加わり、巨大な張り絵を制作。また、九州盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を贈呈した。



第5回

H11.8

ケーキがつなぐ友情の輪

熊本県南関町で開催。大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。第1回のイベントのこども達も参加。



第17回

H23.7

東日本大震災と結ぶ絆 ～子どもシンポジウム～

宮城県女川町の中学生4人と教師を招き、「子どもシンポジウム」を開催。震災への対応や、新エネルギーなどについて話しあい「子ども宣言」として発表した。



第11回

H17.8

キャンペーンのふる里で新潟・山古志、 福岡・玄界島の友と交流

地震で被災した新潟と福岡の子どもたちを熊本県阿蘇に招待して交流。ホームステイなどを通じて友情を深めた。



第18回

H24.7

夢と宇宙と森と

かやぶき屋根の「やまびこ交流館」で、星の観察会、蚊帳での宿泊を体験。基金の森で林業体験、秘密基地作りを通して自然を学ぶ。



第12回

H18.7

いつか笑いがモノを言う ～人生は笑顔から～

福岡市で開催。絵本の読み聞かせやマジックショーなどを行った。ドイツで心臓移植手術を受ける少女のための募金の応援をし、基金からも寄付金を贈った。



第19回

H25.7

東日本大震災と絆を強く～ 石碑建立応援プロジェクト～

宮城県女川町の「いのちの石碑プロジェクト」を応援する街頭募金を行い、防災についてのシンポジウムを開いた。「夢みる子ども基金の森」では、自然観察等を楽しんだ。



第13回

H19.8

夢と希望をメロディーに乗せて ～子ども音楽祭～

子どもたちの歌の合唱、盲学校生の太鼓演奏、居合道、などで交流を深めた。また、子どもたちとアグネス・チャン理事が福岡県西方沖地震で被災した玄界島も慰問した。

子どもたちの夢がかなうまで…



1

作文・イラストの公募

毎年、「わたしのかなえたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学生～中学2年生まで



2

審査

「夢みる子ども基金」理事会・実行委員会にて作文・イラストを審査し入賞者を決定



3

子ども会議

春休みに作文・絵の入賞者を招待し福岡市内で「子ども会議」を開催。夏休みに行う「夢のイベント」を決定



4

夢のイベント

夏休みに「子ども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催!



第14回

H20.8

地球を守るために 『子ども隊』出動

地球環境保護をテーマに「環境子どもサミット」を開き、佐賀県内の国有林に『夢みる子ども基金の森』を開設することや、「環境子ども新聞」の発行を決めた。



第15回

H21.8

松林の中で環境音楽祭

福岡市と佐賀県唐津市で開催。福岡市中心部の公園などのゴミの清掃後、唐津市・虹ノ松原国有林で「環境音楽祭」を開催。唐津市内の4高校のプラスバンド演奏などで盛り上がった。



第16回

H22.7,31,8.1

「夢みる子ども基金の森」開設と 「命」をテーマにしたイベント

佐賀県背振山系に「夢みる子ども基金の森」を開設。翌日は福岡市内で「命の現場をみつめて」のテーマでホスピス病棟などの慰問をした。

大島敏男氏(元NHK)が理事に就任 アグネス・チャン理事は退任

夢みることも基金の平成25年度定期理事会が5月31日、福岡市中央区の福岡ビル9階ホールで開かれました。

議長を務めた八尋晋策理事長は開会の挨拶で「基金は19年を迎え、これまで全国各地から私のかねえたい夢の作文と絵を送つて来たことも7万人を超えました。作品の中には『人のために手を貸したい』『災害で困っている人たちに手を差し伸べたい』というような思いやりの心のものが多いようです。その純真な心から1回目は阪神淡路大震災で両親を亡くしたこともたちを励ましたイベントで始まり、今年の東日本大震災のイベントにつながっており、ほっとした気持ちがあります。基金が抱えていた裁判問題は3月末に控訴審の「双方棄却」のいわゆる引き分

け判決になりました。相手方は上告したようですが、基金の方は目的を達したのもう終わりにします」と述べました。

議事の第一部では役員改選があり、理事長兼常任理事の八尋晋策氏(元読売新聞西部本社論説委員)の再任、常任理事の江口伸幸氏(公益財団法人新聞通信調査会理事)の再任。理事の新任に大島敏男氏(元NHK特別主幹)、顧問の再任に田中儀夫氏(元読売新聞福岡総局長、そして理事の退任にアグネス・チャン氏と横島庄治氏(NPO法人環境システム研究会理事長)の人事案件が承認されました。

実行委員は別掲の通り1人の新任と3人の再任が承認されました。

特にアグネスさんは平成7年の基金スタートの時

から18年間理事を務め、ご主人の金子力氏も実行委員として毎年の基金のイベントや基金運営にも携って頂きました。基金がこれまで活動を続けて来たのもご夫妻の力によるものが大きいと思います。ご夫妻とも「役職を外れても今後も基金に協力する」と言っておられます。

理事会はその後、古市事務局長から平成24年度の活動報告と補綴金属回収報告がありました。回収は194件、重量は70、097gで前年度に比べ回収は16件減りましたが、重量は3,742g増えました。河原英雄・元日本顎咬合学会理事長らの基金運営へのクレームなどが出始めた平成16年度をピークに回収件数、重量とも大きく落ち込みましたが、19年度から横ばいになって

います。しかし、いつもご協力を頂いている協力歯科医院の方々も高齢化などにより廃院されるケースが増えています。24年度は新規加入の協力歯科医院は4件、退会は12件で25年4月1日現在の協力歯科医院は1,101件です。

議事の第二部では吉田雅俊・顧問税理士が収支報告書と貸借対照表に基づいて会計決算を説明し、木村友則監事が「監査の結果適正である」との監査報告をしました。

続いて古市事務局長が平成25年度の事業計画について、吉田顧問税理士が同予算案について説明しました。古市事務局長は「来年は基金ができて20年になるので、関係者の意見や提案などを広く集めてインパクトがある記念イベントにしたい」と話しました。

また基金が団体などに贈っている助成金はバン格拉デシユの「夢みることも基金学校」に30万円、宮城県女川町の中学生が中心

も協力歯科医院の開拓やインターネット時代に沿った新たな活動のPRなどを考えた方がいいのではないかと、その意見が出ました。

基金事務局ではこれらの意見や提案を受けて9月13日、基金の役員、スタッフ、ボランティアなど10数人の意見や提案を受けて9月13日、基金の役員、スタッフ、ボランティアなど10数人が事務局に集まり①20年の記念イベントをどんなものにするか②今後の基金運営をどうするか——について話し合いました。すぐ取りかかることが出来るものはさっそく実行に移す心算です。

成7年の基金スタートの時

20年度から横ばいになって

な

て進めている、女川町の浜辺に津波の到達記録を記した「いのちの石碑」建立プロジェクトに20万円を寄付することが承認されました。

夏のイベントは、ごもたちが春に開かれた「こども会議」で決めた「東日本大震災被災地と絆を強く」のうちの石碑建立応援」に基づき、女川町の中学生らも参加して街頭募金や防災シンポジウムを開くことなどの説明が古市事務局長からありました。

最後に20年を迎える基金運営についての話し合いがありました。世の中がめまぐるしく変わっており、基金



基金定期理事会

人事 ※敬称略	
【理事長・常任理事】 ◇再任 ▽八尋 晋策(元 読売新聞西部本社論説委員・経済部長)	【顧問】 ◇再任 ▽田中 儀夫(元 読売新聞西部本社福岡総局長)
【常任理事】 ◇再任 ▽江口 伸幸(公益財団法人新聞通信調査会理事、元 時事通信社常務取締役総務局長)	【実行委員】 ◇新任 ▽ラフマン・シャハナ(夢みることも基金OB・OG会代表、九州工業大学機械情報工学3年生)
【理事】 ◇新任 ▽大島 敏男(元NHK特別主幹)	◇再任 ▽八尋 晋策(元 読売新聞西部本社論説委員・経済部長)
◇退任 ▽アグネス チャン(歌手、エッセイスト、教育学博士) ▽横島 庄治(NPO法人環境システム研究会理事長、元NHK解説委員)	▽堀江 健一郎(夢みることも基金OB・OG会代表) ▽中田 昭仁(㈱ジーシー九州営業所所長)

民事訴訟は2審も「引き分け」判決

夢みるども基金が日本顎咬合学会の元理事長河原英雄、同河津寛、同学会員増田純一の3氏を相手取り、総額3884万円余の損害賠償を求め、河原氏側も基金の中村直理事長代行（平成23年3月死去）、古市悟事務局長に損害賠償を求めていた民事訴訟の控訴審判決は3月28日、福岡高裁（大飼眞二裁判長）でありました。「双方の控訴を棄却する」と一審と同じ「引き分け」判決でした。

基金は勝訴を信じていたもので残念ですが、一審、二審とも主張すべきことを主張してその多くが認められたと受け止めています。今回の訴えの主たる目的は、河原氏らが「基金に数億円の不明金がある」極めて大きな問題を抱えており、大きな社会問題にさえ発展しかねない」と基金

攻撃を続けて来たので基金としてはその名誉を回復することでした。結局裁判は「痛み分け」の形になりましたが、基金は名誉を回復することができたと思っております。

提訴から5年余が経ちましたが、協力歯科医院の方々は今まで基金を信じて金属冠提供を続けて頂いています。基金は来年20年の節目を迎えます。控訴審判決を一つの区切りとして「この夢を育み、実現する」という基金の理念に基づき、キャンペーン活動に一層、力を入れてまいりますので引き続き皆様の「協力、ご支援をお願い致します」。

なお、河原氏らは控訴審判決を不服として25年4月に古市事務局長を相手取り最高裁に上告しました。

河原氏らの刑事告訴は不起訴に

日本顎咬合学会の元理事長河原英雄氏ら3人の歯科医師は、「基金発行の基金だよりなどで名誉を毀損された」などとして5月に基金の八尋晋策理事長、古市悟事務局長を名誉毀損罪

で福岡地方検察庁に刑事告訴しました。同地検は6月18日、「河原氏らの訴えの内容はいずれも名誉毀損にあたらない」として不起訴処分しました。

あなたがジュニアグレンである あなたのジュニアグレン

♪マイドリーム ドント・ストップ

このフレーズだけではどうしても止められませんが、思わず次の歌詞を口ずさんでしまいます。

♪今ドアをあけて、
かきりない夢にむかうくオーマ
イラブ、

私達どもも会議メンバーOB・OGは皆知っています。全員が歌えます。

この歌は私達の宝物であり、誇りであり、人生の指標です。

アグネス・チャンさんは基金の発足時にこの素晴らしい歌を作ってくださいました。まるで母親が生まれたばかりの我が子にこれから始まる長い人生を力強く歩んでほしいとの思いをこの歌に託したかのように、リズムカルなメロディー、流れるような自然な言葉の数々、一度聞いたら何回も頭の中で繰り返されます。当初は何気に口ずさんでいたのですが、回を増すごとにこの歌詞

の持つ意味や偉大なパワーに改めて感動しています。

マイドリーム・ドント・ストップ
プー信しあう仲間と世界という名の天空へ

この歌詞のとおり、たぐさんの夢を持つて世界へ羽ばたいていきました。この頃を描いた夢を叶えた人や、また新たな夢を見つけて進んだ人など様々ですが、その根底には皆、アグネス・チャンさんを初めとする夢みるども基金の大人たちが教えてくれた「夢を持ち続けることの大切さ」が心に生きていたからだと思います。小さな心に宿った夢を目の前で叶えてくれた感動は今でも忘れられることはありません。設立から約19年。私たちは大人と呼ばれる年齢になり、あれから挫折や大きな壁にぶつかった者もいます。夢はそんなに簡単には叶わないと思えたこともありましたが、

でも「人生、苦境に立たされた時こそ、広い外の世界をみて視野を広げ、夢を大きくもつ」という強い心を育ててくれたのも、またこの夢みるども基金でした。

毎年、春のども会議と夏のイベントにアグネス・チャンさんが来て下さると、会場がパッと華やいて皆の笑顔が輝きました。そして「毎年2回春と夏に会うなんて七夕さんみたいね」と言ってお下さったと、私たちの心に嬉しい記憶として残



施設に贈る巨大ケーキ作り(平成11年)



アフリカに送る食物の種子の収穫(平成12年)

環境音楽祭、どれをとってもアグネス・チャンさんと過ごしたイベントの思い出の数々は私たちの心の中でとても温かく、今でも宝石のようにキラキラ輝いています。そしてその思い出は幼き頃の「夢を叶えようとした場所」として皆一人一人の中で、大切に息づいています。今、振り返ってみますとアグネス・チャンさんの無償の愛に包まれながら、甘えればかりの幼い私たちでした。親離れ、子離れの時期がやってきたように思います。

これからも、基金の皆の母なるアグネス・チャンさんから学んだ教えを胸に Don't Stop My Dream を自分達の励ましの力として広い大海洋を前へ前へと船を漕いで進んでいきたいと思えます。

そして、このテーマ曲を私たちの次の子供の世代まで歌い継いでいきたいと思っています。今後の私達をこれからも見守っていて下さい。

長尾 怜美
（夢みるども基金OB・OG会長
九州歯科大学大学院生）



どもたちと記念植樹(平成7年)

夢みる子ども基金学校の現状



図書館を利用する生徒たち。本や雑誌や教材が不足している。

例年と同様、今年8月27日〜9月8日までバングラデシユと手をつなぐ会の4人のメンバーでカラムティ村を訪問してきました。ダッカから二人の日本人とダッカの山形・ダツカ友好病院の院長、アポロ病院の心臓外科医も途中で合流。8月31日と9月3日に夢みる子ども基金学校を訪問。生徒との交流や教職員達との意見交換などを行いました。またいろいろな情報も入手しました。

現在の生徒数 男子697人 女子405人 合計1102人

教員数 38人、会計1人、用務員兼ガードマン4人

2013年度の学業成績は以下である

地方教育委員会による試験(8県合同)A+の成績によりて学校の評価が決まる

8年生受験者数95人中18人A+

10年生受験者数76人中17人A+



運動会2013



夢みる子ども基金主催の作文やイラストコンクールで入賞した子供たちの表彰式

12年生受験者数91人中16人A+

そのほか、課外活動の面で演技や討論会などで県代表としてクルナ州(Khulna Division)大会に参加。このことが生徒自身はもちろん、保護者や教員たちの誇りでもあり、後輩たちを激励するものでもあります。夢みる子ども基金主催の作文やイラストコンクールへの参加も同様であります。特に今年のイラストのどれを見ても素晴らしい、高く評価できるものばかりでした。卒業生を見ても、国立や有名な私立大学に毎年数十名が入学し、高い夢を胸に刻んで頑張っています。彼らのその努力を見て私たちが励みになります。

すぐに解決すべきいくつかの問題もあります。中学校に



実験に夢中の生徒たち。本を読んで学ぶというより実験・体験して学ぶのが最も効果的である。

は図書館と簡単な実験ができる実験室がありません。しかし高校にはありません。小・中学校から高校は離れているため同じ施設を両方で使えません。また学年が違うので内容ももちろん違います。高校生が自由にいつでも使えるような図書館や実験室を作る必要があります。また現代社会では、コンピュータなしで就職も生活も何もできません。学生に早くからこれらの物に触れさせる機会を作ることが必要です。今、学生が使えるコンピュータ室もなく、もちろんコンピユータもありません。いずれにしても、これまで基金学校を支援してくださった方々に心から感謝しています。

夢みる子ども基金学校
日本側の責任者

フランシス・モクレスル

夢みるこどもキャンペーン・協力歯科医院申込FAX用紙

右のキトリ線から切り取り、FAXにてご送信くださいますようお願い致します。

住 所	郵便番号	〒
	都道府県	
	市区郡町名番地	
	マンション名 ビル名	
医 院 名		(ふりがな)
院 長 名		(ふりがな)
TEL	()	—
FAX	()	—
*通信欄(ご意見・要望などありましたら記入ください)		

キトリ線

*お申込みをいただきましたら、事務局から待合室に貼るポスター、回収箱などをお送り致します。

*定期回収は毎年秋ですが、補綴金属は随時受け付けています。少量でも結構です。

*金属をお送りいただく際は、集荷フリーダイヤル(ゆうパック)【0800-0800-111】にお電話いただき“基金着払い”でお送り下さい。

*登録費、年会費はございません。

「基金の流れ」は背表紙に掲載しております。

「夢みるこどもキャンペーン」の活動については下記ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.yumemirukodomo.jp>

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。



お申し込みFAX番号

FAX092-751-0249

※右のキトリ線から切り取りFAXをお流し下さい。

基金の流れ



歯科医院など



個人の方

患者様同意のもと提供された金属冠



無料で引取・配送



ご自宅にある不要な金属冠

「金属冠」は換金され
こどもたちの夢の支援に
役立てられます。



金属塊に再生→換金

換金された
リサイクル利益金
が役に立てられます。



こどもたち

業者に委託しての回収はしていません

夢みるこども基金は金属冠の回収を正確、クリアするために、金属冠は基金に直接送っていただいています。これまで、一部の金属業者が「基金と提携している」「業者から基金に送る」などとウソをついて、金属冠を持ち去るケースがありましたのでご注意ください。

また、基金は設立時から国税局の指導を受けながら業務を進めており、協力歯科医院に対しては毎年度「基金だより」と一緒に決算書などを送付しています。金属冠を送っていただいた歯科医院等については、その都度受領証と感謝状を送り、基金備え付けの帳簿に受け入れ年月日、重量などを細かく記録しています。課税関係などで問題が生じた時にも対応できるようになっていますのでご連絡ください。

10月と11月は金属冠定期回収月間です

●ご入会について

協力歯科医院のお申し込みは随時受け付けています。15頁の申込用紙を切り取り、FAXにて送信してください。登録費、年会費はございません。ご入会いただくと、直ちにポスター、木箱、内ポトル2個をお送りします。内ポトルに金属冠をためていただき、基金事務局までお送りください。

●金属冠は随時受付中

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に10月と11月を強化月間としています。少量しかたまっていないでも構いませんので、集荷フリーダイヤル(ゆうパック☎0800-0800-111)へ電話し、「基金着払い」でお送りください。直接基金事務局(☎092-751-0021)へ電話されても結構です。

金属冠集荷フリーダイヤル

ゆうパック☎0800-0800-111

編集後記

道しるべ

平成6年(1994年)12月19日午後、私は東京都渋谷区広尾のアグネス・チャンさんの事務所兼自宅を訪ねました。アグネスさんに翌7年3月29日創設予定の夢みるこども基金の理事になってもうお願ひをするためでした。

「主人で事務所代表だった金子力さんと私の話をじつと聞いておられたアグネスさんはほとんど質問もなく、「素晴らしいですね。一緒にやりましょう」と理事就任を快諾して下さいました。まだ基金の規約などを詳細も決まっていないうちに、断られることを覚悟していた私は心の中で「バンザイ」を叫びました。アグネスさんの事務所を出て、すぐ近くの公衆電話に飛び付き、福岡の基金準備会の人たちに報告しました。興奮していたので電話の音が大きく、道行く人の視線が私に集まったことを今でも鮮明に覚えています。

歯の金属冠を浄財にするキャンペーンは初めてでしたので、何をやるのかはつきりしない「どうせ1、2年でつぶれる」との厳しい見方をする人が多かったのも事実でした。だからアグネスさんに理事になってもうたことは、基金の信用を高め、存在を社会に認知してもらう大きな力になりました。「アグネスさんがやるなら信用できる」「応援しよう」という歯科医師の方もたくさんいらっしゃいました。アグネス理事はそれから毎年、春に開かれる「こども会議」の司会を務め、全国から集まるこどもたちから「私のかねえたい夢」を優しく導いて下さいました。

「こども会議」を受けて夏休みに実現するイベントにも第1回の熊本県・阿蘇から始まり、毎年、各地に駆け付けて下さいました。

イベントは真夏の開催ですが、身重や体調が悪い時も一度も休むことなく、こどもたちのスピーチ、歌、街頭での活動など先頭に立ってキャンペーンを引っ張って下さいました。アグネスさんなくては基金は存在しなかった、と今でも思っています。

ユゼフ大使として世界各地を回り、難民キャンプで傷ついたこどもたちを抱きしめて励ましたことなど、アグネスさんの話は「こどもたちには衝撃的で感動的でもありました。」「皆さんは恵まれていますが、そのことを忘れずに自分の夢に向かって頑張りなさい」という呼び掛けには説得力がありました。

基金の進むべき道しるべの提言ももらいました。基金は来年が節目の20年を迎えます。イベントに参加したこどもは300人を超えます。イベントの輪の中心はいつもアグネスさんでした。その中で友情を育んだこどもたちの心にはいまでもアグネスさんの思いと魂が息づいています。

アグネスさんは理事辞任の手紙の中でも十分に自分の役割は果たせたと思う。皆さんの努力で基金をさらに素晴らしいものにして下さい。理事を辞任しても何かお手伝いすることがあれば基金を応援していきたい」と述べられています。本当にありがとうございます。

常任理事・事務局長
古市悟

Facebook 夢みるこども基金Facebook

夢みるこども基金のフェイスブックページを10月末に始める予定です。「夢みるこども基金」で検索して下さい！基金の最新情報を発信します！



発行 夢みるこども基金事務局

URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F

☎092-751-0021 FAX 092-751-0249

E-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp